

令和元年度 福井県公共工事入札監視委員会審議状況報告

福井県公共工事入札監視委員会要領第6の規定により、令和元年度の審議状況について下記のとおり報告します。

令和2年3月31日

福井県知事様

福井県公共工事入札監視委員会

記

1 開催状況

《第1回》

- (1) 日時 令和元年6月5日(火) 13:30～15:00
- (2) 場所 県庁3階 第4委員会室
- (3) 出席委員 荒井委員、金崎委員、川上委員、清水委員、藤井委員
 - ・入札および契約に係る制度の運用について
 - ・抽出事案審議

《第2回》

- (1) 日時 令和元年9月3日(火) 13:30～15:00
- (2) 場所 県庁3階 第4委員会室
- (3) 出席委員 荒井委員、金崎委員、川上委員、清水委員、藤井委員
 - ・入札および契約に係る制度の運用について
 - ・抽出事案審議

《第3回》

- (1) 日時 令和元年11月18日(月) 13:00～14:30
- (2) 場所 県庁3階 第2委員会室
- (3) 出席委員 荒井委員、金崎委員、川上委員、藤井委員
 - ・入札および契約に係る制度の運用について
 - ・抽出事案審議

《第4回》

- (1) 日 時 令和2年3月18日(水) 9:00 ~ 10:45
- (2) 場 所 県庁3階 第4委員会室
- (3) 出席委員 荒井委員、金崎委員、川上委員、清水委員、藤井委員
- ・入札および契約に係る制度の運用について
 - ・抽出事案審議
 - ・談合その他の不正行為に関する事項について

2 主な質疑および説明

(1) 入札契約全般

Q 入札者が1者だけのようだが、その原因は何か。

A 北陸新幹線関連工事の下請けに入っているため、事業者が多忙になっていることが1つの原因であると考えている。また、当該工事が、機械施工の部分よりも作業員の手で行う部分が多いため、なかなか人員を割けない事業者が入札を敬遠したことも理由の一つと考えている。

Q 不調不落の状況について、発注件数が増えていることもあると思うが、原因としては配置予定技術者足りないといった解釈でいいのか

A 手持ち工事が増えることによる配置技術者の不足や、山奥の工事など治山関係の工事等で施工場所が悪く入札を見送るといったことも聞いている。

Q 平準化に向けた工夫は何か。

A 平準化については、常々気を張っている。業界から4~6月に手持工事が減ることから、その時期に工事を発注してほしいと聞いており、今年度は国の緊急対策により、河川の伐木などを発注している。

(2) 総合評価落札方式関係

Q 総合評価落札方式で価格順位4位以下、技術評価点4位以下の者が落札している案件があるが、このような結果になる原因はなにか。

A 総合評価落札方式において、基準価格を下回った場合には、その入札者の評価値を下げるという方法で評価を行っている。そのため、基準価格を下回ったため評価値が下がり、基準価格を上回っている入札者が落札しているケースも含まれている。

Q 総合評価落札方式の地域防災力維持型は、各地域の防災力を維持していくための制度だと理解しているが、ひとつの建設事業者が多くの工事を落札する制度にはなっていないのか。

A 発注機関ごとの地域防災力維持型の契約件数に応じて加点評価を行っているが、今年の5月から、この加点の評価方法を見直した。例えば同じ入札日に3本の地域防災力維持型の発注があった場合には、ひとつの工事のみ最大の加点を申請できるが、他の工事は最大の加点ができないように改正した。

Q 総合評価落札方式「地域防災力維持型」において、7割以上自社施工加点の趣旨はなにか。

A 「地域防災力維持型」は、地域に精通した守り手となる業者を育成するため、土木一式の比較的簡易な工事を対象に、自社施工に対して加点するものである。

(3) その他

Q 猛禽類調査は年度ごとに発注しているのか。

A そうだ。

Q 毎年発注する必要があることは理解できるが、調査のノウハウや調査員の配置などの調査効率を考慮すると、ひとつの事業者複数年度の契約で発注することを検討してもよいのではないか。予算の都合などの理由でできないのか。

A 工事が複数年度にまたがるときは継続費の予算を組んで、ひとつの建設事業者が発注することができる。一方、本件のような調査は年度によって調査の場所が変わるので、違う事業者でも業務を行うことができるという意見もある。発注方法については、今後、研究したい。

3 検討を要する事項

特になし